



北本市立南小学校だより

# わかみどり

URL <http://minami.city.kitamoto.lg.jp>

令和6年10月号

〒364-0032

北本市緑3丁目387番地

TEL 048-591-4709

FAX 048-591-5802

学校教育目標 **みんな なかよく みどりの学校** 「かしこく げんきな 南っ子」

## 先を考える力



校長 酒井 一昭

9月を終えると、令和6年度の折り返しを迎えます。1学期の終わりには午後7時になっても明るかったのに、最近では日が暮れるのが早くなり、どこからともなく虫の音が響き始め、秋の訪れを知らせてくれます。

本校では「南小 トライアングル ミッション」と銘打ち、次の重点を掲げています。

①身に付ける(学力・体力) ②心を耕す(規律ある態度・徳育) ③先を考える(円滑な関係づくり・見通し)

の3点から学校教育が果たすべき使命を重点化しています。今回は「先を考える」について書かせていただきます。

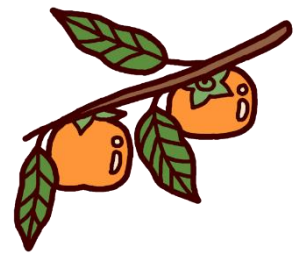


これからの社会は、AI技術等の進歩とともに、「先を考える・見通す」ことが難しいといわれています。そのような中で、子どもたちには、主体的に感性を働かせて、他者と協働しながらよりよいもの、より豊かなものを創りあげていくことが求められています。

例えば、「ボールが道に転がってくると、その後ろには必ず子どもの姿がある」ということは、車を運転する者にとって、このことは当たり前とも言える事です。「ボールはひとりでに転がるものではなく、ボールを追いかけて子どもが道に飛び出してくる」という危険性があります。車を運転する大人であれば、基本的にはその危険性を予見し、即座にブレーキに足をかけるのです。

子どもたちから見た場合はどうでしょうか。ボール遊びに夢中になっているときは、ボールを中心に楽しい場面という狭い視野の部分しか見えていません。ボールが逸れて転がっていくと、ボールをめがけて追いかけます。道に転がれば道までボールを追いかけてしまいます。必ずしもその先の危険を見通せるわけではありません。道には車が通ることは教わっていたとしても、ボール遊びの延長の先に車があることなんて考えつかないでしょう。

今回の件で考えると、ひとつには、事前に「ボールを追って道に飛び出さない」ということを子どもたちに伝えることです。ふたつには、「ボール遊びを道路で行うことが危険である」ということを子どもたちに伝えることも必要です。



どちらも大切なことですが、わたしたちが子どもたちに対してつけてやりたい力をてるのはどちらでしょうか。どちらかと言えばふたつめの方なのではないでしょうか。

子どもたちにつけたい力は「いろいろな可能性がある中から、先を見通してどの選択肢が自分にとってより良いものなのかを適切に判断し、自分の行動を決定する力」です。

先を見通す力は、例に挙げたような危険回避に役立つだけでなく、勉強やスポーツなどありとあらゆるところで役立つ力です。その場の判断も必要なこともありますが、事前にどのようなことが考えられるかを想定しておく習慣をつけておき、先を見通して考え行動することを促し、見通す力をつけてやりたいものです。

学校においても、例えば教室から特別教室に移動するときに、自分の荷物を持って移動するのは当たり前ですが、その次の授業のことを考えて準備する、教室の照明や電子黒板の電気を消す、窓を閉める、など次に動くその先の様々なことを想定して動くことの必要性など、小さなことから学ばせてまいります。是非ご家庭でも「見通す力」を日々の生活の中で数多く経験させていただければ、と思います。

